

2 日本遺産「里沼 (SATO-NUMA)」について (文化振興課市史編さんセンター所長)

令和元年5月に、「里沼 (SATO-NUMA) - 「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化-」というストーリーで文化庁の日本遺産に認定されました。日本遺産制度は、日本全国にある地域の特色や独自の歴史文化をまとめ、文化財とつなぎ合わせた地域独特のストーリーを日本遺産として認定する制度です。

私たちの地域を見直す中で、館林の歴史文化を繋げていたのが実は沼であり、沼が館林の歴史文化と深く関わっているということに気がつきました。そして、沼々が色々な顔を持っていることから、その特色を「祈り」「実り」「守り」という言葉で表現しました。「祈り」は、まず心、人間の精神のこと。そして「実り」は私たちが生活する上で大事な暮らしや産業、経済。そして「守り」は館林を中心として、まずお城が出来て、まち(都市)が出来る。「祈り」「実り」「守り」の要素をそれぞれの沼に当てはめ、「祈り」の沼が茂林寺沼、「実り」の沼が多々良沼、「守り」の沼が城沼として館林の歴史文化を集約し、これら3つの沼を中心に近代化の過程で「もてなしの文化」へ変貌し、現在に繋がっているというストーリーになっています。

また、「里沼」のストーリーを構成する38の文化財があります。それ以外にも館林の「里沼」と関連づける文化財や自然環境がたくさんあります。特に、市内には5つの沼があり、3つの沼以外にも近藤沼、蛇沼があります。近藤沼にはかつて掘り上げ田があって私たちの暮らしと密着していたこと、蛇沼には近くに間掘遺跡という縄文時代の遺跡があって歴史的に深く関わっています。今後、近藤沼、蛇沼、館林紬を構成文化財に追加するため文化庁に申請するよう進めています。

3 館林市ヌマベーション連絡協議会について

(1) 館林市ヌマベーション連絡協議会が目指すもの

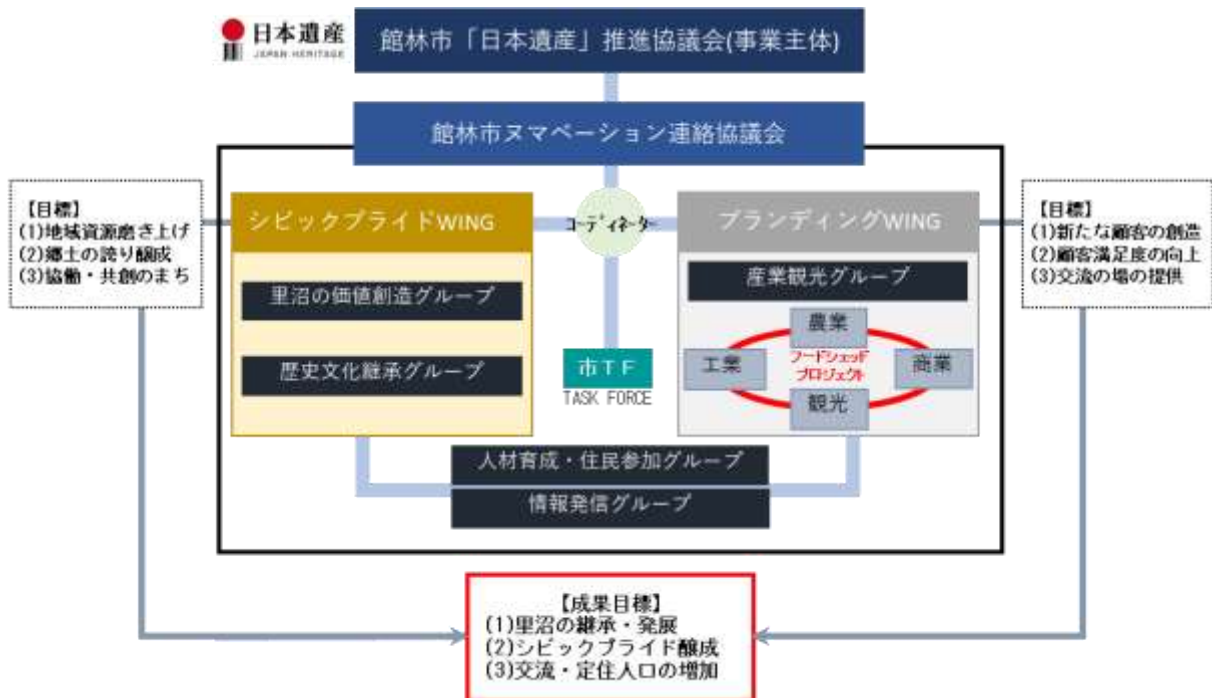
(コーディネーター NPO 法人まちづくり支援センター 为国孝敏氏)

この協議会の目的は、主に協働のまちづくり、交流人口の増加ですが、皆さん市民の方たちに館林市民であることに誇りを持ってもらうためのキーワードとして「里沼」があります。館林には色々な資源があるのに上手く発信していない、何か他のところの方が良さそうに見えるようなことを見聞きしますが、そんなことはないのです。「里沼」というキーワードのもとに、私たちが館林市民だという誇りを持っていただけるようなものを仕掛けていくのがこの協議会になります。



つまり、この協議会では「館林市の里沼」をキーワードにして、“市民が一丸となって館林を盛り上げていくための仕掛けと推進するための旗振り役になる”ということをお皆さんと一緒にやっていきたいです。

では、この協議会で何をやるのかということ、大きくは2つ。シビックプライドウィングでは、里沼の価値をもっと上げていきたいと思いますとか、歴史文化を継承していきましょうとか、こういうところを磨き上げましょうというグループになります。もう一つのグループがブランディングウィングです。要するに地域ブランドです。私も随分地域ブランドに関わっていますが、形だけのブランディングでは駄目なのです。ブランディングというのは、まずは市民の人達がそのものを良いと思うこと。そして更にそれをプロモーションする、発信するということを繰り返していくことによってブランドというのが出来上がっていきます。色々なブランドは、外の人から評価して初めてブランドになるのです。そこで、地域の良さを磨き上げていくために産業観光グループという形を作っています。



さらにそれに合わせて、人材育成・住民参加グループ、情報発信グループ。これらは両ウィングの活動をサポートするためのものです。また、市役所の中でタスクフォースという作業部会を作っています。これが皆さん方と一緒にやって行く中で行政と

して側面的に支えていくものになるわけです。

こういう形でこの協議会を、今日をきっかけに正式にスタートしていくこととなります。沢山の方々に集まっていたいただいておりますが、皆さん方はそれぞれのところでご活躍されている方々ですので、その方たちと一緒にやっていくことによって色々な反応が生まれ、それを外に発信していく。あるいは市民の皆さんに誇りを持ってもらえるようなことを進めていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 地域プロデューサーからの取組報告

①里沼の価値創造グループ

(地域プロデューサー アクアスフィア・水教育研究所 橋本淳司氏)

私は、里沼の価値というものを皆さんと一緒に高めていくというグループをやらせていただきます。価値を高めるとは、一言で言うと里沼の「いいね！」を皆さんと一緒に集めていきたいと思っています。



私は水ジャーナリストという肩書で仕事をしていまして、仕事柄全国の水辺を歩きます。やはり故郷の沼というのは格別です。その沼の色々な面を皆さんと一緒に見て、人によって異なる沼に対する思いや「いいね！」を皆さんと一緒に集める。昔からの「いいね！」も集め、昔からの「いいね！」と今の「いいね！」が集まることによって、更に新しい「いいね！」も集めることが出来る。更には50年後の「いいね！」は何なのかということも考えていければと思います。

先日、第三中学校の皆さんと里沼について学びを始めました。初めて沼に行った生徒達も多く、水質だけではなく生き物、植物そして沼で採れる食べ物などに興味を持つ子どもも沢山いて、彼らが60何歳になる50年後の里沼について、彼らはそういう里沼の環境を将来残していきたいと言っています。

そして私たちが1つ気にしておくべきことが、気候変動によって沼にどの位の影響が出てくるのかという点を気にしておきながら将来の沼作りを考えていかななくてはならないと思っています。

②歴史文化継承グループ

(地域プロデューサー 館林文化財ボランティアの会 岡屋英治氏)

私は、歴史文化継承ということを中心に「里沼」の活動を進めていきたいと思っています。シビックプライド、要するに市民としての誇り、なぜ私は館林市民なのか、そういうものを考えていくことが大切なことだと思っています。館林に住んで本当に良かったと思ってもらえるような素材を見つけていこうというのが歴史文化継承グループの人達の役割であると思っています。



私は、館林文化財ボランティアの会の会長をやっていまして、活動を通して、「里沼って何」というところをまずは市民の皆さんに知っていただきたい。それから館林を訪れてくれる人達に知っていただきたいということで、講座や市内の案内、研修など様々な活動をしています。

また、「里沼」というと沼だけを思い浮かべるとは思いますが、日本遺産のストーリー名には「沼が磨き上げた館林の沼辺文化」とあります。沼だけではないのです。沼の周りで人々が暮らししてきた中で館林独特の文化が作り上げられています。そういったものを市民の皆さんと感じ、それを大切にしながら未来へ伝えていきたい、そういう願いを持っています。

③産業観光グループ

(地域プロデューサー 館林市認定農業者協議会 恩田昭一氏)

私からはフードシェッドプロジェクトの取組についてご説明いたします。

フードシェッドという言葉がなかなか皆さんに浸透しづらいのですが、農業、商業、工業の三業の異業種が連携して館林のブランドを作っていくという団体だとしてご理解いただければと思います。

このフードシェッドについては、早くから取り組んでおりまして、例えば、農業では小麦を使って麺のまち「うどんの里館林」振興会と手を組んで、新しい美味しい物を作っていく取組とか。ま



た、最近ではこの地域でも採れる南方の果物シークワサーを使って、お菓子やジュースなどに利用して館林初のお菓子を作ったいこうとか。新しい商品を作りながら、館林に来ないと買えない、ここに来ないと食べられないというものを開発していきたいと思っています。

また、情報発信させていただくと、10月23日に館林駅の東西連絡通路を使ってマルシェという実証実験を行いました。野菜やポイセンベリーを使った加工品、和菓子、オリーブの苗木などを並べて販売しました。アンケートでは、概ね好評だったと聞いております。今後このような形で、最初は農業と商業ですけども、今後は工業とも連携しながら、館林初というものをどんどん発信していければと思っています。これからもよろしく願いいたします。

4 意見交換

「里沼の価値創造グループ」「歴史文化継承グループ」「産業観光グループ」「人材育成・住民参加グループ」のグループ毎に地域プロデューサーを中心に意見交換を行いました。

(1) 里沼の価値創造グループ

- キーワードとして挙がっていたものは、ムジナモを始めとするオニバスなどの希少な植物、それから白鳥、魚、そして魚は食べられること。同時にそれらの周りにある景観、ロケーション。そして、だからこそ周りでヨガをしたり、ズンバ(Zumba)をしたり、自転車で回ったり、子ども達が遊ぶことも出来る。
- コロナになって残念なことは非常に多いけれども、その反面親子連れが増えている。野鳥、近藤沼のジャブジャブ池、そういうところにも子ども連れが増えているところがいい。
- 最終的なまとめとして、まず色々な価値があるからこそ横のつながりを持ち、お互いが良くなるようになっていく。それから次の世代にこれを伝えていくことがとても大事。そして、「里沼」というのは自然がまずベースになっているので、自然保護のところで頑張ったいこうという話をしました。

(2) 歴史文化継承グループ

- それぞれの団体が単独でやってもなかなか力にならないところがあるのではな

いか。団体同士で協力しあったり、分野の違うところと連携したりすることによってもう少し広がっていくのではないか。

- こういう風になったらいい、ああいう風になったらいいという要望がありましたが、その中でそれぞれの団体、それぞれの方々が、自分たちに何が出来るのか、こういうことだったら出来ることを実践していくことが大事なのではないか。
- 一つの合言葉として「知りましょう」ということ。「里沼」を知りましょう。知ったらその価値を大切にしましょう、守りましょう。そして、知ったことを他の人達に伝えていきましょう。「知ること、守ること、伝えること」、これは文化財の合言葉ですが、これを一つの切り口にしていくと新しいやり方が出てくるのではないか。

(3) 産業観光グループ

- お米で言えば田植え・稲刈りなど、今はやりのグリーンツーリズムという形で上手く出来ればよい。
- 館林に来た人を宿泊できる手配、その次の段階になれば移住定住など、誘客に対して観光分野からお手伝いが出来る。
- 地元のお米で造った地元のお酒を造っており、そういった中で、副産物として酒饅頭にしてみたり、余ったものを肥料にしてみたり。ミネラルが入った肥料を使った地元初の農産物を作ってみよう。
- 市内企業として商品の開発の協力ができる。新しい工場も出来て、工場の中から「里沼」の発信ということも協力できる。
- ボイセンベリーとかシークワサーなど色々なものを新商品の開発に加えたい。
- 生産物の収穫の喜びをみんなで分かち合い、収穫祭などを通して「里沼」でお酒などを飲みながら祝う。これはシビックプライドにも繋がるものでもある。
- 地元の人が本当に美味しいというものを発信し、内外から人々に来てもらうということをしてはどうか。
- 某番組の力を借りて城沼の水を抜いてみようとか、話題性として夏の暑さを利用した我慢大会をしてはどうか。
- 館林に来た人に地元の美味しい生産物、農産物などをお土産として提供し、自信をもっていける館林にしていきたい。

(4) 人材育成・住民参加グループ

- ターゲットを小学生、中学生にしたい。かつてあった「館林かるた」を復活し、上手く活用したい。
- 現在、JC（青年会議所）で里沼アートをやっていて、里沼モンスターカードというのを作ってインスタグラムで出ている。まだフォロワーが3人で少ないので、是非たくさん周知していきたい。
- 今、全小中学校に「里沼」の学習について指示がされており、そういう情報を集めながら我々としては人材育成の中で、まず子ども達をターゲットに、子ども達に夢を持ってもらえるような仕掛けが出来るかどうかということこれから考えていきたい。

(5) 意見交換のまとめ（コーディネーター 為国孝敏氏）

今後は地域プロデューサーと参加している皆さんで、更に色々な理解を深められるように、任意でも集まれるような形を取りたいと考えています。

日程等含めたところは、地域プロデューサーと側面支援していただける市のタスクフォースのメンバー達と調整しながら皆様方にお声を掛けさせていただきたいと思えます。是非、今日の話を踏まえて皆さん方と活動を活発に続けて頑張っていきたい、そして次の情報交換が出来る場に持っていきたいと思えます。

4 その他

(1) 日本遺産「里沼」ロゴデザインの決定について

館林商工高校、地元デザイナーと連携し、館林の「里沼」をPRするロゴデザインを作成し、投票によって1作品を決定しました。

【デザインコンセプト】

- ・沼の特徴を、白鳥(多々良沼)・つつじ(城沼)・葦(茂林寺沼)で表現。
- ・円の中に三分割でデザインし、一体感を表現
- ・海外のお客様にも分かるように、英語表記

